

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	熊本工業専門学校
設置者名	学校法人 開新学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	自動車整備工学科	夜・通信	598 時間	160 時間	
	電気システム科	夜・通信	210 時間	160 時間	
	機械システム科	夜・通信	240 時間	160 時間	
	半導体工学科	夜・通信	300 時間	160 時間	
文化教養専門課程	日本語科	夜・通信		160 時間	※
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.kumakosen.jp/outline/disclosure/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名 日本語科
(困難である理由) 日本語科においては、特定の職業を想定せず、専ら言語としての日本語の汎用的な知識、技能の習得を目的としているため要件を満たすことが困難である。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	熊本工業専門学校
設置者名	学校法人 開新学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kumakosen.jp/outline/disclosure/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	協同組合代表理事会長		組織運営へのチェック機能を果たし、 学校法人の経営業務事項を決する。
非常勤	熊本市南土地改良区 理事長		
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	熊本工業専門学校
設置者名	学校法人 開新学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画は、定められたカリキュラムとシラバスに基づいて適正に教員を配置している。シラバスはそれぞれの担当授業について担当教員が授業計画をたて、作成している。</p> <p>学生に対して、それぞれの進路に求められる専門性の習得確認、および本校で定める教育内容にふさわしいものであることを学校として確認し、その後、学年の最初の所で学生に示し、オリエンテーションの機会に口頭でも説明している。シラバスは、永年保存資料として保管している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.kumakosen.jp/outline/disclosure/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>全ての科目において、その評価を点数化することを担当教員に対して求めている。評価方法は、出席率、授業参画・態度、提出物、試験結果およびその他の要素を組み合わせで評価している。</p> <p>A 評価 (100 - 80 点), B 評価 (79 - 70 点), C 評価 (69 - 60 点), D 評価 (59 点以下) で、D 評価は単位が取得できない。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校では、定期試験の点数を合計して成績分布その他の指標を作成している。G P Aについては、単位数あたりの成績とされており、単位数に応じた比重で成績が扱われている。しかし、本校で行なわれている実学教育においては、習得するための時間数に差があるとしても現場での重要性においては時間数に比例する形での差があるとは認められるものではない。</p> <p>従って各科目において得た得点をそのまま合計する事によって成績分布のデータになり得ると考えている。留意点としては「一旦科目認定試験で不合格となったが追試験の結果合格した場合」である。</p> <p>この場合、追試験の結果は本校の成績規定に則り、試験の点数に係らず60点(評価C)とする事になるため、点数の合計においては素点ではなく60点で一律としている。</p> <p>成績の分布については教室内での学修指導や担任による面談には使われていない。クラスや学年の中での相対的な成績の位置は本校での学修目標にはなりえないと考えているからである。実際に点数による順位付けが活用されているのは、卒業時に成績優秀者に与えられる表彰者の選定場面である。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.kumakosen.jp/outline/disclosure/
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定については、全ての課程(学科)において、卒業に必要な時間数以上を履修し、全科目の単位を取得することで、卒業認定会にて認定している。</p> <p>進級の認定基準においても、進級に必要な時間数以上を履修し、全科目の単位を取得することで、進級認定会にて認定している。卒業、進級ともに全ての科目において合格していることを求めており、それらの結果をもとにして、学長、副学長、教頭、各科長、全教官(非常勤講師を除く)で構成する上記会議体にて、全学生について審議し、卒業・進級の条件が満たされていることを確認し最終的に、卒業・進級が認定されている。</p> <p>卒業・進級の認定については、学則・教務規定に記述し、全学生に配布するとともに、学年初めのオリエンテーションにても周知徹底している。また、日常的に、毎朝のホームルームにおいても時期が来れば話題とし、学生に啓蒙している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.kumakosen.jp/outline/disclosure/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	熊本工業専門学校
設置者名	学校法人 開新学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kumakosen.jp/outline/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	https://www.kumakosen.jp/outline/disclosure/
財産目録	https://www.kumakosen.jp/outline/disclosure/
事業報告書	https://www.kumakosen.jp/outline/disclosure/
監事による監査報告（書）	https://www.kumakosen.jp/outline/disclosure/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	自動車整備工学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	2 3 4 0 単位時間／単位	時間 900	0 時間	1440 時間	0 時間	0 時間	
			単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
160 人		151 人	116 人	7 人	4 人		11 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>授業計画は、定められたカリキュラムとシラバスに基づいて適正に教員を配置している。シラバスはそれぞれの担当授業について担当教員が授業計画をたて、作成している。</p> <p>学生に対して、それぞれの進路に求められる専門性の習得確認、および本校で定める教育内容にふさわしいものであることを学校として確認し、その後、学年の最初の所で学生に示し、オリエンテーションの機会に口頭でも説明している。シラバスは、永年保存資料として保管している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>全ての科目において、その評価を点数化することを担当教員に対して求めている。評価方法は、出席率、授業参画・態度、提出物、試験結果およびその他の要素を組み合わせで評価している。</p> <p>A 評価（100 - 80 点）、B 評価（79 - 70 点）、C 評価（69 - 60 点）、D 評価（59 点以下）で、D 評価は単位が取得できない。</p>

卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>卒業の認定については、全ての課程(学科)において、卒業に必要な時間数以上を履修し、全科目の単位を取得することで、卒業認定会にて認定している。</p> <p>進級の認定基準においても、進級に必要な時間数以上を履修し、全科目の単位を取得することで、進級認定会にて認定している。卒業、進級ともに全ての科目において合格していることを求めており、それらの結果をもとにして、学長、副学長、教頭、各科長、全教官(非常勤講師を除く)で構成する上記会議体にて、全学生について審議し、卒業・進級の条件が満たされていることを確認し最終的に、卒業・進級が認定されている。</p> <p>卒業・進級の認定については、学則・教務規定に記述し、全学生に配布するとともに、学年初めのオリエンテーションにても周知徹底している。また、日常的に、毎朝のホームルームにおいても時期が来れば話題とし、学生に啓蒙している。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>各科の学年担任により、学生と保護者に連絡を取り、中間・期末試験成績を送付し、学修成果が上がるように指導しており、また、学生の状況を把握した上で、担任、科長、事務、就職部にて特に進路等については、学校として支援している。</p>

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
26 人 (100%)	0 人 (%)	26 人 (100%)	0 人 (%)
(主な就職、業界等) 自動車ディーラー企業、自動車整備会社			
(就職指導内容) 2級ガソリン自動車整備士、2級ジーゼル自動車整備士国家資格の取得 個別面談、履歴書作成指導、面接指導、会社説明会への出席			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2級ガソリン自動車整備士、2級ジーゼル自動車整備士国家資格の取得 中古自動車査定士、乙種危険物取扱者、ソーシャル検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
108 人	3 人	3 %
(中途退学の主な理由) ・進路変更のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行うほか、校内支援委員会の活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携して、中退防止に努めている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電気システム科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2160 単位時間／単位	1860 時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位	300 時間	単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		25 人	15 人	3 人	4 人	7 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>授業計画は、定められたカリキュラムとシラバスに基づいて適正に教員を配置している。シラバスはそれぞれの担当授業について担当教員が授業計画をたて、作成している。</p> <p>学生に対して、それぞれの進路に求められる専門性の習得確認、および本校で定める教育内容にふさわしいものであることを学校として確認し、その後、学年の最初の所で学生に示し、オリエンテーションの機会に口頭でも説明している。シラバスは、永年保存資料として保管している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>全ての科目において、その評価を点数化することを担当教員に対して求めている。評価方法は、出席率、授業参画・態度、提出物、試験結果およびその他の要素を組み合わせで評価している。</p> <p>A 評価（100 - 80 点）、B 評価（79 - 70 点）、C 評価（69 - 60 点）、D 評価（59 点以下）で、D 評価は単位が取得できない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>卒業の認定については、全ての課程(学科)において、卒業に必要な時間数以上を履修し、全科目の単位を取得することで、卒業認定会にて認定している。</p> <p>進級の認定基準においても、進級に必要な時間数以上を履修し、全科目の単位を取得することで、進級認定会にて認定している。卒業、進級ともに全ての科目において合格していることを求めており、それらの結果をもとにして、学長、副学長、教頭、各科長、全教官(非常勤講師を除く)で構成する上記会議体にて、全学生について審議し、卒業・進級の条件が満たされていることを確認し最終的に、卒業・進級が認定されている。</p> <p>卒業・進級の認定については、学則・教務規定に記述し、全学生に配布するとともに、学年初めのオリエンテーションにても周知徹底している。また、日常的に、毎朝のホームルームにおいても時期が来れば話題とし、学生に啓蒙</p>

している。
学修支援等
(概要) 各科の学年担任により、学生と保護者に連絡を取り、中間・期末試験成績を送付し、学修成果が上がるように指導しており、また、学生の状況を把握した上で、担任、科長、事務、就職部にて特に進路等については、学校として支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14 人 (100%)	0 人 (0 %)	14 人 (100%)	0 人 (0 %)
(主な就職、業界等) 電気工事会社(殆ど県内)、電気工事業界、電力系統企業、造船等製造業			
(就職指導内容) 第二種電気工事士取得を目標に指導している。 個別面談、履歴書作成指導、面接指導、会社説明会への出席			
(主な学修成果（資格・検定等）) 第二種電気工事士、第一種電気工事士、工事担任者			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39 人	1 人	2.5 %
(中途退学の主な理由) ・進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行うほか、校内支援委員会の活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携して、中退防止に努めている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	機械システム科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1920 単位時間／単位	1440 時間	単位時間 /単位	480 時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		12 人	6 人	4 人	4 人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>授業計画は、定められたカリキュラムとシラバスに基づいて適正に教員を配置している。シラバスはそれぞれの担当授業について担当教員が授業計画をたて、作成している。</p> <p>学生に対して、それぞれの進路に求められる専門性の習得確認、および本校で定める教育内容にふさわしいものであることを学校として確認し、その後、学年の最初の所で学生に示し、オリエンテーションの機会に口頭でも説明している。シラバスは、永年保存資料として保管している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>全ての科目において、その評価を点数化することを担当教員に対して求めている。評価方法は、出席率、授業参画・態度、提出物、試験結果およびその他の要素を組み合わせで評価している。</p> <p>A 評価（100 - 80 点）、B 評価（79 - 70 点）、C 評価（69 - 60 点）、D 評価（59 点以下）で、D 評価は単位が取得できない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>卒業の認定については、全ての課程(学科)において、卒業に必要な時間数以上を履修し、全科目の単位を取得することで、卒業認定会にて認定している。</p> <p>進級の認定基準においても、進級に必要な時間数以上を履修し、全科目の単位を取得することで、進級認定会にて認定している。卒業、進級ともに全ての科目において合格していることを求めており、それらの結果をもとにして、学長、副学長、教頭、各科長、全教官(非常勤講師を除く)で構成する上記会議体にて、全学生について審議し、卒業・進級の条件が満たされていることを確認し最終的に、卒業・進級が認定されている。</p> <p>卒業・進級の認定については、学則・教務規定に記述し、全学生に配布するとともに、学年初めのオリエンテーションにても周知徹底している。また、日常的に、毎朝のホームルームにおいても時期が来れば話題とし、学生に啓蒙</p>

している。
学修支援等
(概要) 各科の学年担任により、学生と保護者に連絡を取り、中間・期末試験成績を送付し、学修成果が上がるように指導しており、また、学生の状況を把握した上で、担任、科長、事務、就職部にて特に進路等については、学校として支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
6 人 (100%)	0 人 (%)	6 人 (100%)	0 人 (%)
(主な就職、業界等) 製造企業等を中心に、機械設計、開発、保守、製造等の幅広い分野			
(就職指導内容) 個別面談、履歴書作成指導、面接指導、会社説明会への出席			
(主な学修成果（資格・検定等）) 技能検定 3 級機械加工(普通旋盤)、デジタル技術検定、乙種危険物取扱者			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18 人	0 人	0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行うほか、校内支援委員会の活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携して、中退防止に努めている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	半導体工学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1860 単位時間／単位	1500 時間	単位時間 /単位	360 時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		49 人	21 人	4 人	8 人	12 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>授業計画は、定められたカリキュラムとシラバスに基づいて適正に教員を配置している。シラバスはそれぞれの担当授業について担当教員が授業計画をたて、作成している。</p> <p>学生に対して、それぞれの進路に求められる専門性の習得確認、および本校で定める教育内容にふさわしいものであることを学校として確認し、その後、学年の最初の所で学生に示し、オリエンテーションの機会に口頭でも説明している。シラバスは、永年保存資料として保管している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>全ての科目において、その評価を点数化することを担当教員に対して求めている。評価方法は、出席率、授業参画・態度、提出物、試験結果およびその他の要素を組み合わせで評価している。</p> <p>A 評価（100 - 80 点）、B 評価（79 - 70 点）、C 評価（69 - 60 点）、D 評価（59 点以下）で、D 評価は単位が取得できない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>卒業の認定については、全ての課程(学科)において、卒業に必要な時間数以上を履修し、全科目の単位を取得することで、卒業認定会にて認定している。</p> <p>進級の認定基準においても、進級に必要な時間数以上を履修し、全科目の単位を取得することで、進級認定会にて認定している。卒業、進級ともに全ての科目において合格していることを求めており、それらの結果をもとにして、学長、副学長、教頭、各科長、全教官(非常勤講師を除く)で構成する上記会議体にて、全学生について審議し、卒業・進級の条件が満たされていることを確認し最終的に、卒業・進級が認定されている。</p> <p>卒業・進級の認定については、学則・教務規定に記述し、全学生に配布するとともに、学年初めのオリエンテーションにても周知徹底している。また、日常的に、毎朝のホームルームにおいても時期が来れば話題とし、学生に啓蒙</p>

している。
学修支援等
(概要) 各科の学年担任により、学生と保護者に連絡を取り、中間・期末試験成績を送付し、学修成果が上がるように指導しており、また、学生の状況を把握した上で、担任、科長、事務、就職部にて特に進路等については、学校として支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (100%)	0 人 (%)	0 人 (100%)	0 人 (%)
(主な就職、業界等) 今年度入学のため就職は来年度となる。			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行うほか、校内支援委員会の活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携して、中退防止に努めている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養課程	日本語科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1800 単位時間／単位	1800 時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		67 人	67 人	3 人	11 人	14 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>授業計画は、定められたカリキュラムとシラバスに基づいて適正に教員を配置している。シラバスはそれぞれの担当授業について担当教員が授業計画をたて、作成している。</p> <p>学生に対して、それぞれの進路に求められる専門性の習得確認、および本校で定める教育内容にふさわしいものであることを学校として確認し、その後、学年の最初の所で学生に示し、オリエンテーションの機会に口頭でも説明している。シラバスは、永年保存資料として保管している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>全ての科目において、その評価を点数化することを担当教員に対して求めている。評価方法は、出席率、授業参画・態度、提出物、試験結果およびその他の要素を組み合わせで評価している。</p> <p>A 評価（100 - 80 点）、B 評価（79 - 70 点）、C 評価（69 - 60 点）、D 評価（59 点以下）で、D 評価は単位が取得できない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>卒業の認定については、全ての課程(学科)において、卒業に必要な時間数以上を履修し、全科目の単位を取得することで、卒業認定会にて認定している。</p> <p>進級の認定基準においても、進級に必要な時間数以上を履修し、全科目の単位を取得することで、進級認定会にて認定している。卒業、進級ともに全ての科目において合格していることを求めており、それらの結果をもとにして、学長、副学長、教頭、各科長、全教官(非常勤講師を除く)で構成する上記会議体にて、全学生について審議し、卒業・進級の条件が満たされていることを確認し最終的に、卒業・進級が認定されている。</p> <p>卒業・進級の認定については、学則・教務規定に記述し、全学生に配布するとともに、学年初めのオリエンテーションにても周知徹底している。また、日常的に、毎朝のホームルームにおいても時期が来れば話題とし、学生に啓蒙</p>

している。
学修支援等
(概要) 各科の学年担任により、学生と保護者に連絡を取り、中間・期末試験成績を送付し、学修成果が上がるように指導しており、また、学生の状況を把握した上で、担任、科長、事務、就職部にて特に進路等については、学校として支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
25 人 (100 %)	25 人 (100 %)	人 (%)	0 人 (%)
(主な就職、業界等) 全員進学			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
53 人	0 人	0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行うほか、校内支援委員会の活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携して、中退防止に努めている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養課程	日本語科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年半	昼	1350 単位時間／単位	1350 時間	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		15 人	15 人	3 人	11 人	14 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）</p> <p>【様式第 2 号の 3 より再掲載】</p> <p>授業計画は、定められたカリキュラムとシラバスに基づいて適正に教員を配置している。シラバスはそれぞれの担当授業について担当教員が授業計画をたて、作成している。</p> <p>学生に対して、それぞれの進路に求められる専門性の習得確認、および本校で定める教育内容にふさわしいものであることを学校として確認し、その後、学年の最初の所で学生に示し、オリエンテーションの機会に口頭でも説明している。シラバスは、永年保存資料として保管している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>【様式第 2 号の 3 より再掲載】</p> <p>全ての科目において、その評価を点数化することを担当教員に対して求めている。評価方法は、出席率、授業参画・態度、提出物、試験結果およびその他の要素を組み合わせで評価している。</p> <p>A 評価（100 - 80 点）、B 評価（79 - 70 点）、C 評価（69 - 60 点）、D 評価（59 点以下）で、D 評価は単位が取得できない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>【様式第 2 号の 3 より再掲載】</p> <p>卒業の認定については、全ての課程(学科)において、卒業に必要な時間数以上を履修し、全科目の単位を取得することで、卒業認定会にて認定している。</p> <p>進級の認定基準においても、進級に必要な時間数以上を履修し、全科目の単位を取得することで、進級認定会にて認定している。卒業、進級ともに全ての科目において合格していることを求めており、それらの結果をもとにして、学長、副学長、教頭、各科長、全教官(非常勤講師を除く)で構成する上記会議体にて、全学生について審議し、卒業・進級の条件が満たされていることを確認し最終的に、卒業・進級が認定されている。</p> <p>卒業・進級の認定については、学則・教務規定に記述し、全学生に配布するとともに、学年初めのオリエンテーションにても周知徹底している。また、日常的に、毎朝のホームルームにおいても時期が来れば話題とし、学生に啓蒙</p>

している。
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>各科の学年担任により、学生と保護者に連絡を取り、中間・期末試験成績を送付し、学修成果が上がるように指導しており、また、学生の状況を把握した上で、担任、科長、事務、就職部にて特に進路等については、学校として支援している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12 人 (100%)	10 人 (83 %)	2 人 (17 %)	0 人 (%)
(主な就職、業界等) 外食産業			
<p>(就職指導内容)</p> <p>日本語教育において、日本語検定 N3 を取得できるように指導している。 就職した 2 名は、本国(ネパール)において大学を卒業している。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>日本語検定（N3）</p>			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27 人	0 人	0 %
(中途退学の主な理由)		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>担任が定期的に個人面談を行うほか、校内支援委員会の活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携して、中退防止に努めている。</p>		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
自動車整備工学科	100,000 円	500,000 円	250,000 円	
電気システム科	100,000 円	500,000 円	250,000 円	
機械システム科	100,000 円	500,000 円	250,000 円	
半導体工学科	100,000 円	500,000 円	250,000 円	
日本語科 (2 年コース)	100,000 円	580,000 円		
日本語科 (1 年半コース)	100,000 円	435,000 円		
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.kumakosen.jp/outline/disclosure/
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制） <p>実践的な職業教育を目的とした学校の教育活動その他の学校運営の状況について、成果を検証し必要な改善を行うことにより、学生がより質の高い水準の職業教育を受けることができるような学校運営の発展を目指していく。</p> <p>そのために学生や卒業生、専門領域の業界関係者の意見を積極的に汲み取り反映させるとともに、活動状況を分かりやすく的確に示す必要がある。</p> <p>そこで、専門領域の業界関係者を含む学校関係者評価委員会(委員 8 名により構成)を組織し、本校の教育理念や目標に照らして自己評価を実施しその結果を公表することにより、組織的・継続的な改善に努めることとした。これにより、学校関係者と本校教職員との対話を通して、本校が行った自己評価等を評価するとともに、学校運営や教育活動への学校関係者の参画を促進することにより、地元の産業発展に貢献できる学校づくりを進めることを目的とする。</p>

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
熊本大学特任教授（元工学部長）	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	有識者
熊本県工業連合会事務局長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業・法人等委員
（一社）熊本県自動車整備振興会 事業部教育課長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業・法人等委員
（一財）九州電気保安協会事業所長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業・法人等委員
製造系株式会社代表取締役会長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業・法人等委員
税理士・税理士事務所長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業・法人等委員
自動車ディーラー系株式会社 取締役	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	卒業生
学校法人・高等学校長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	本校関係者
熊本工業専門学校 校長		
学校関係者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.kumakosen.jp/outline/disclosure/		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.kumakosen.jp/outline/disclosure/
--